災害から生命(いのち)を守る学びテスト

JBK ジュニア防災検定®登録商標

第１回

中級

テストⅠ（40分）

問題用紙

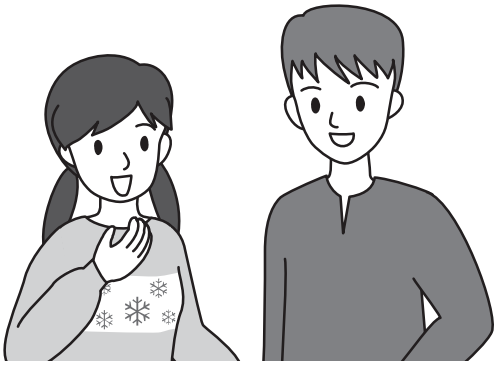
「ジュニア防災検定」に取り組むことを通して、みなさんが、次の①～③のようになることを目指しています。

① 日ごろから災害に備えた準備ができる。
② 災害時に生命(いのち)を守るための行動ができる。
③ 未来を創(つく)るひとりとして防災・減災のために何ができるのかを考えることができる。

・問題用紙は全部で19ページあります。
・受検番号と名前を、答案用紙の決められた欄(らん)に書きましょう。
・問題の答えは、答案用紙に書きましょう。
・質問があるとき、トイレに行きたくなったとき、気持ちが悪くなったときなどは、手をあげて知らせましょう。

問題・解答の無断転用・転載を固くお断り致します

1 あなたが住む地域では、これまでにどのような災害が発生してきたでしょうか。また、今後どのような災害が発生する可能性があるでしょうか。次の枠囲みの中の会話は、小学６年生のはるかさんと、そのお兄さんである中学２年生のたかしくんとが、はるかさんの学校であった防災訓練の話をきっかけに災害について話しているものです。



はるか：今日、学校で防災訓練があったの。

たかし：ぼくの学校でもやっているよ。はるかの学校ではどんなことをしたの。

はるか：教室で授業を受けているときに大きな地震が起こったことを想定して、大きな揺れが続いている間に身を守ったり、揺れがおさまったあと安全な場所に避難したりする訓練をしたわ。

たかし：地震はいつ起こるかわからないから、万が一のときもあわてないようにすることが大切だね。

はるか：防災訓練の「防災」ということばには、「災害による被害を未然に防ぐ」という意味と「受ける被害を軽減する」という２つの意味があるそうよ。

たかし：そうなんだ。

はるか：でも、災害って地震だけじゃないわよね。

たかし：うん。日本は地形や地質、気候、位置などから世界の中でも自然災害に見舞われやすいといえるんだ。地震のほかにはどんなものがあるだろう？

はるか：たとえば、津波、台風、大雨、火山噴火…。

たかし：それに竜巻や豪雪などもあるね。

問題１　前のページの会話の中で、はるかさんとたかしくんは自然災害の種類として次のようなものをあげています。

津波、地震、台風、大雨、火山噴火、竜巻、豪雪

二人があげた「災害」に共通することがらとして**あてはまらないもの**を次のア～オから１つ選び、記号で答えましょう。

ア　自然に起こる現象を原因としている。

イ　人間の生活に大きな影響を与える。

ウ　津波、高潮、なだれなどの災害をともなうものもある。

エ　いつ、どこで起こるかをあらかじめ正確に知ることができる。

オ　ふだんから備えることで被害を少なくすることができる。

問題２　前のページの会話の中で、たかしくんは、日本は地形・地質・気候・位置などの点から世界の中でも自然災害に見舞われやすいといっています。日本が災害に見舞われやすい地形・地質・気候・位置などについての説明として**あてはまらないもの**を次のア～オから１つ選び、記号で答えましょう。

ア　日本列島の周辺には、地球の表面をおおう十数枚のプレート（岩板）のうちの４枚が集まっている。

イ　日本列島は、太平洋を環のようにとりまく変動帯の一部にあたり、世界的にも地震や火山が多い。

ウ　日本列島はその大部分が温帯に属していて、台風の通り道になったり、梅雨前線の影響を受けたりしやすい。

エ　日本の国土は４分の３が山地で、周囲を山に囲まれた内陸部に人口の多い都市が集まっている。

オ　日本の川は、大陸を流れる川にくらべて長さは短いため、流れが急になり、大雨が降ると一気に水量を増すものが多い。

はるか：今あげた災害の中で、私たちの住む地域でとくに起こる可能性があると考えられている災害はどれかしら。

たかし：防災訓練でも地震への備えが中心となることが多いから、まず地震かな。

はるか：やっぱり地震かあ。それを確かめるにはどうしたらよいのかしら。

たかし：まず、この地域の大人の人たちが経験した災害について聞いてみるといいんじゃないかな。また、この地域でずっと昔に起こった災害にどんなものがあるかを郷土史などで調べてみることもできるね。あと、地域の住民のために用意されているハザードマップを手に入れるという方法もあるね。

問題３　上の会話の中で、たかしくんがあげている、地域で起こりやすい災害を調べる方法を次の１～３のようにまとめてみました。あなたが住む地域で起こりやすい災害について調べるときのことも考えながら、(　　)にあてはまるもっともふさわしいことばをあとのア～ケから選び、それぞれ記号で答えましょう。

１．自分の両親や、地域に住む大人、とくに(　　)に、この地域で昔起こった災害について聞いてみる。

２．学校や地域の(　　)に行って、自分の住む地域の郷土史について調べてみる。

３．自分の住む地域の(　　)に行って、災害が起こりやすい場所や避難場所などを書きこんだ災害予測地図(ハザードマップ)を手に入れる。

ア　子ども　　イ　若い人たち　　ウ　お年寄り　　エ　警察署

オ　保健所　　カ　図書室(館)　　キ　銀行　　ク　神社

ケ　市役所や町役場

はるか：今日、学校でもらったパンフレットには、大きな地震が起こったときの「10のポイント」というのがあげられているわ。

たかし：どれどれ。

「地震　その時10のポイント」

《地震時の行動》

1．地震だ！　まず身の安全

《地震直後の行動》

2．落ち着いて　火の元確認　初期消火

3．あわてた行動　けがのもと

4．窓や戸を開け　出口を確保

5．門や塀には　近寄らない

《地震後の行動》

6．火災や津波　確かな避難

7．正しい情報　確かな行動

8．確かめ合おう　わが家の安全　隣の安否

9．協力し合って　救出・救護

10．避難の前に安全確認　電気・ガス

地震が起こったらまず自分の身の安全の確保ということだね。そしてそれができたら次にやらなければいけないのは、家の安全の確認と隣の安否の確認や救出・救護なんだね。

はるか：海の近くにいるときに大きな地震が起こったら、6に書いてある津波が心配ね。《地震後の行動》って、自分がどこにいるのかによってもちがってきそうだわ。

問題４　前のページの「10のポイント」の《地震時の行動》の１には、「地震だ！まず身の安全」とあります。あなたが自宅にいて大きな地震による強い揺れが発生したとき、あなただったらまずどのような行動によって身の安全を確保しようとしますか。「……ために……」というかたちで答えましょう。

たかし：地震が起こったときの「10のポイント」のうちの《地震後の行動》には、地震のときだけでなく、ほかの災害のときにもあてはまるものがあるね。

はるか：たとえば、６にある「確かな避難」ということね。どうしたら、災害時に避難する場所を調べることができるのかしら。

たかし：さっきも話に出たけれど、この地域で災害が起こりやすい場所や避難所がしめされている地図を手に入れることだね。それと、「確かな避難」の中には、災害時の持ち出し品の準備もふくまれているんじゃないかな。

はるか：「持ち出し品」って、災害時に身につけておきたい、必要な持ち物のことね。

問題５　災害時に避難所に行くときに持ち出す物はどのようにしたらよいでしょうか。もっともふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えましょう。

ア　避難所に行くときに何が必要かを考えて、持ち出せるものを持っていく。

イ　あらかじめ持ち出すものの表をつくっておいて、避難所に行くときにその表を持っていく。

ウ　あらかじめ持ち出すものを家の中に用意しておき、避難所に行くときにそれをリュックなどに入れて持っていく。

エ　あらかじめ持ち出すものをリュックなどに入れておき、避難所に行くときにそれを持っていく。

問題6　次にあげるのは、災害時の「持ち出し品」の例です。あなただったらこの例にさらにどのようなものを加えますか。その使いみちとともに説明しましょう。

災害が起こったときの持ち出し品の例

持ち出し品	使いみち
懐中電灯	暗い場所を明るくする。
携帯ラジオ	災害についての情報を得る。
ウェットティッシュ	手や体をふく。
救急用品	けがや病気に備える。
お気に入りの本	気持ちを落ち着かせる。

たかし：「10のポイント」の7にある「正しい情報　確かな行動」っていうのも、あらゆる災害時に大切になってくることだね。

はるか：ふだんはテレビをたよりにしているけれど、自宅が停電になったり、避難所に行ったりしているときには、テレビにたよることができないわ。そんなときに正確な情報を得る方法としては、どのようなものがあるのかしら。

たかし：情報にもいろいろな種類があって、一口に災害時に必要な情報といっても、自分が置かれている状況によって変わってくるからね。

問題７　災害時に「正しい情報」を得る手段として**もっともふさわしくないもの**を次のア～エから１つ選び、記号で答えましょう。

ア　全体の被害の状況や今後の見通しなどの情報は、携帯ラジオのニュースを通じて得る。

イ　家族や身近な人たちの被害の状況や居場所などの情報は、携帯電話やスマートフォンを通じて得る。

ウ　隣近所や地域の人びとの被害の状況や居場所についての情報は、避難所に設けられた掲示板などを通じて得る。

エ　自分の目で確かめることができない場所の被害の状況や今後の見通しなどの情報は、同じように不安な気持ちでいる人びとのうわさ話を通じて得る。

たかし：「10のポイント」の９にある「協力し合って　救出・救護」というのも、あらゆる災害時に通じることだね。これまでにあった大きな災害でも、隣近所や地域の人びとの協力が多くの人の命を救ったといわれているよ。

はるか：私でも何かできることがあるかしら。

たかし：あると思うよ。まず、自分の身の安全の確保が大切だよね。それができたら、大人のように救出・救護活動に直接参加することはできなくても、避難所などで協力できることがいろいろあるんじゃないかな。

問題８　災害時、地域の避難所で何日間か生活しなければならなくなったとき、あなただったら、そこでどのような協力ができると思いますか。

2 日本は世界でも大地の変動がさかんな場所に位置しているため、とても地震の多い国です。地震という自然現象そのものをなくすことはできませんが、過去の地震から学ぶことで、将来の地震による被害を最小限に食い止めることは可能です。このような、過去から学ぶという視点を持って、あとの問題に取り組んでみましょう。

まことくんは、学校で、日本は地震の多い国であるということやその理由を学んだことをきっかけに、「多いといってもどれくらい多いのだろう？　過去にはどんな地震があったのだろう？」ということに興味を持ちました。そして、インターネットで調べた資料や統計を使って、1990年以降に起きたおもな地震を年表にまとめてみました。

年　月	気象庁が発表した地震の名前
1993年1月	釧路沖地震
1993年7月	北海道南西沖地震
1994年10月	北海道東方沖地震
1994年12月	三陸はるか沖地震
1995年1月	兵庫県南部地震→【　①　】大震災
2000年10月	鳥取県西部地震
2001年3月	芸予地震
2003年9月	十勝沖地震
2004年10月	新潟県中越地震
2007年3月	能登半島地震
2007年7月	新潟県中越沖地震
2008年6月	岩手・宮城内陸地震
2011年3月	東北地方太平洋沖地震→【　②　】大震災

問題1　次のA～Dの文は、年表中のいずれかの地震で起きたことがらの説明です。説明文から読み取れる情報を手がかりにどの地震のことなのかを判断し、年表中の地震の名でそれぞれ答えましょう。

A　この地震によって6400人以上の死者・行方不明者が出ました。家屋が倒壊したことによるぎせい者が多く、阪神高速道路神戸線の高架が崩れ落ちたようすは日本中の人に衝撃をあたえました。	B　この地震によって起きた津波が、北海道の渡島半島の西沖にうかぶ奥尻島をおそいました。奥尻島は人口5000人ほどの漁業や観光が中心の島でしたが、この津波で人口のおよそ4％にあたる人がぎせいになりました。
C　この地震による死者は1名と少なかったものの、石川県の伝統的工芸品として有名な輪島塗の作業場が倒壊したり、古くから続く酒蔵のタンクが損傷したりと、災害が産業にあたえる影響が注目されました。	D　この地震は東北地方の内陸部という比較的人口密度の低い地域で起こりました。しかし、山間部であったために土砂崩れや地すべりによる被害が大きく、いまだに行方不明のままの人もいます。

問題2　年表中の地震の名はすべて気象庁が命名した(名前をつけた)ものです。地震にかぎらず、自然現象の規模や被害が大きかった場合、気象庁がその自然現象に名前をつけることになっています。次の文章は気象庁のホームページにのっていた「命名の考え方」です。これを読んで自然現象に名前をつけることにはどのような意味があるのか、あなたの考えを説明してみましょう。

※1顕著な災害を起こした自然現象については、命名することにより共通の名称を使用して、過去に発生した大規模な災害における経験や貴重な教訓を後世代に伝承するとともに、※2防災関係機関等が災害発生後の応急、復旧活動を円滑に実施することが期待される。

※1　顕著…はっきりときわだっているようす。だれの目にも明らかなようす。
※2　防災関係機関…消防・警察・自衛隊や国土交通省、内閣府など、災害発生時にかかわる機関のこと。

問題３　気象庁では発生した自然現象に対して命名をしますが、それによって発生した「災害」に対しては政府が別の名をつけることがあります。年表中の【　　①　　】・【　　②　　】には、気象庁が命名した地震の名ではなく、政府が決定した災害の名があてはまります。これらの震災の名をそれぞれ答えましょう。

まことくんは、過去の地震について調べる中で、「地震というものは、震源地から遠く離れた場所でもさまざまな影響や被害が出る」ということを知りました。
特に、2011年に起こった東北地方太平洋沖地震では、震源から何百キロも離れた地域にも大きな影響が出たことを思い出し、当時のニュースをインターネットを利用して検索してみました。

問題４　次の①～⑤は、2011年３月に起こった東北地方太平洋沖地震が、震源地から遠く離れた場所にもたらした、さまざまな影響のうちのいくつかの事例を説明したものです。

① 地震によってさまざまな商品の供給が一時的に不足した。そのため、スーパーやコンビニからペットボトルの水や生活用品が姿を消したり、ガソリンや灯油がなくなったりする事態になり、多くの人が困ってしまった。

② 地震直後から固定電話・携帯電話ともにつながりにくくなり、家族と連絡がとれない人が続出した。しかし、そうした状況の中でもインターネットを使った一部のサービスやＳＮＳ、災害伝言板などの電話サービスは比較的、利用しやすかった。また、サービス利用のしかたについての知識が人によって差があることも浮きぼりになった。

③　首都圏では、交通網がまひしてしまったことにより、会社や学校から帰宅できなくなるいわゆる帰宅困難者が多数発生し、会社や公共の施設、駅の構内で一夜を明かす人も数多く出た。また、都内の道路は徒歩で帰宅する人であふれかえり、自転車を急きょ購入して帰宅しようとする人もいた。

④　東京湾岸の一部の地域では、地震の揺れによって液状化現象がおき、住宅がかたむいたり、ガスや水道が長期間使えなくなったりするなどの影響が出た。これによって、公園や避難所の仮設トイレを使ったり、お風呂を借りたりするなど、日常生活に大きな支障が出た。

⑤　アメリカ西海岸のカリフォルニア州では、地震から10時間以上たって到達した津波を写真におさめようとして海岸を訪れた男性が波にさらわれて亡くなった。また、ハワイのオアフ島では高さ２メートルの津波が押しよせ、ホテルのロビーが浸水したり、船が破損したりした。

(1)　①の文章中の波線部について、これらの商品の供給が一時的に不足したのはなぜですか。その理由として**ふさわしくないもの**を次のア～エから１つ選び、記号で答えましょう。

ア　製品を運ぶために使っていた道路が寸断されて、輸送が滞った場所があるため。

イ　地震による火災などの影響で、一時的に操業を停止した製油所があったため。

ウ　物資不足の報道を耳にして、不安にかられた消費者が買いだめをしたため。

エ　一時的に外国との貿易ができなくなり、製品の輸入がとだえたため。

(2) ④の文章中の波線部について、都市部で大きな地震が起こったときの問題のひとつとして、電気やガス、水道などのライフラインが寸断されてしまうということがあります。次の表は、兵庫県南部地震のときのライフラインの復旧までにかかったおよその日数をまとめたものです。この表を見ると、電気や電話にくらべて、水道・下水道・ガスの復旧に多くの時間がかかっていることがわかります。その原因とは何かを、水道管やガス管の通っている場所に着目して説明しましょう。

ライフラインの復旧時期

施設名	復旧時期　(かかった日数)
電力(関西電力)	1995年1月23日　(6日間)
通信(NTT)	1995年1月31日　(14日間)
ガス(大阪ガス)	1995年4月11日　(84日間)
水道(神戸市水道局)	1995年4月17日　(90日間)
下水道(神戸市下水道局)	1995年4月20日　(93日間)

(神戸市のホームページより)

(3) ①～⑤の事例の中から、今後の防災・減災を考える上で、あなたにとってもっとも関心のあることがらを1つ選び、番号で答えましょう。そして、選んだことがらについて、そこからどのような教訓を得ることができたか、また、今後に生かすためにあなたは日ごろからどのような準備をすることができるのかを説明しましょう。

3 はるかさんは、連休を利用して、いとこのまことくんの家に遊びに行きました。ある日、朝から雨が降っていたので、家ではるかさんとまことくんは、いろいろな話をしていました。そのうち、雨や風による災害の話になりました。

まこと：今年の夏は、いろんなところで、大雨が降って、被害が起きたね。
はるか：そうね。洪水で、家が水につかったり、がけくずれが起きて、家がつぶされたりしたわ。
まこと：どうして、雨が降るのかな？
はるか：それは自然現象のことを知る入り口になりそうね。調べてみましょう。

雨が降る原因となるのは、空気の性質と空気中に含まれる水蒸気です。
空気の性質には、次のようなものがあります。

- まわりより温度が高い空気は軽く、まわりより温度が低い空気は重い。
- 空気が含むことのできる水蒸気の量は決まっていて、温度が高いほど、空気が含むことができる水蒸気の量は多くなる。
- 地球の表面近くの空気は、地面によって温められる。

問題1 次の文は、はるかさんがとらえた、雨の降るしくみです。文中の①、②にあてはまることばを(　　)の中から選び、ア、イの記号で答えましょう。

- 地表近くで温められた空気は、まわりの空気より①(ア 軽く　イ 重く)なるので、上昇する。上昇した空気は、標高が高くなるにつれて冷やされて温度が低くなっていく。空気中に含むことのできる水蒸気の量は、温度が低い方が②(ア 多い　イ 少ない)。したがって、地表付近で十分に水蒸気を含んでいた空気が上昇して温度が下がった場合、ある標高になると、多くの水蒸気を含むことができなくなり、水蒸気の一部が水の粒になる。このときできた小さな水の粒が集まって雲ができる。雲が多くなると雨が降る。

まこと：空気の上昇する速さが速くなり、雲が次から次へとできれば、積乱雲になるんだね。

はるか：そして、その積乱雲からすごい量の雨が降ってくるのね。

まこと：1時間あたりの雨量と降り方にはどのような関係があるのかな。

はるか：それなら、このような表があるわ。

1時間あたりの雨量	雨の降り方のようす	心配される被害
0～3㎜	小雨、弱い雨：雨がパラつく。 ぽつぽつ降る。	特になし。
3～10㎜	家の中から見て雨が降っていることがわかる。 水たまりができる。	特になし。
10～20㎜	やや強い雨：ザーザー降る。 家の中で雨音が聞こえる。 雨が地面に落ちてはねがあがり、足がぬれる。	長く降り続く場合は注意が必要。
20～30㎜	強い雨：土砂降り。 傘をさしていてもぬれる。	小さな川や側溝があふれることがある。
30～50㎜	バケツをひっくり返したような雨。 道路が川のようになる。	都市では、下水管から雨水があふれる。 土砂崩れ等が起きやすい地域では、避難の準備が必要。
50～80㎜	滝のように雨が降る。 傘はまったく役に立たない。 水しぶきで、あたり一面が白っぽくなる。	マンホールから水が噴出する。 土石流が起きやすくなる。
80㎜以上	恐怖を感じるような雨。 息苦しいような圧迫感を感じる雨。	大規模な災害の可能性が高くなる。

※気象庁資料改編

まこと：これは、1時間雨が降り続いた場合の表だね。雨量は「mm」の単位だね。

はるか：そうよ。降った雨が、どこにも移動せず、地面にもしみこまない場合、雨水の高さがどれぐらいになるかを表した数字ね。

まこと：この表から、雨の降り方のようすを観察すると、どれぐらいの雨が降っているかわかるね。

はるか：1時間に20～30mmの雨が1時間降り続くと、小さな川や側溝があふれるのね。

まこと：そうだね。だから、強い雨が降り続いたときには、あまり外に出ない方がいいんだ。

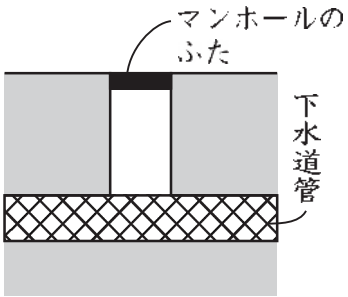
問題２　1時間に20～30mmの雨が降り続いた場合、外に出ない方がよいのは、災害にあう可能性を少なくするためです。外に出たときにあう可能性が高い、命に関わる危険はどれですか。次のア～ウから選び、記号で答えましょう。

ア　道路が川のようになるので、長靴がぬげてしまうこと。

イ　側溝や小さな川があふれてしまうので、道路の境目との区別がつきにくく、まちがって、落ちてしまうことがあること。

ウ　雨の音がうるさくて、人の話が聞こえにくくなること。

問題３　図は、マンホールの断面を簡単に表したものです。図の下水道管に、上流で降った雨水がすごい勢いで流れ込むと、下水道管の中の空気が急に押されることになります。このとき、マンホールのふたはどのようになりますか。文で説明しましょう。

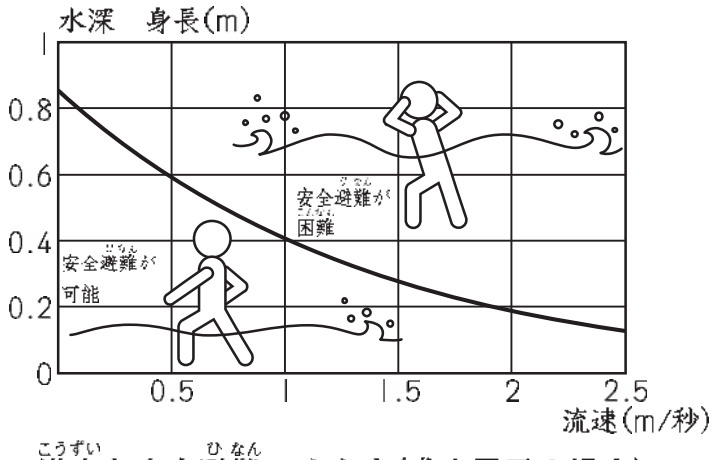


はるか：私の住んでいる地域は、洪水になりやすい所なの。だから、洪水になったら、避難しなければならないわ。

まこと：水の中を歩くのは大変だな。

はるか：こんなグラフがあるわ。グラフ中の太線よりも下の部分の状況ならば、安全に歩いて避難できるということね。

まこと：このグラフは、大人の男の人についてしめしたものだね。だから、女の人や子ども、お年寄りや体の不自由な人は、避難するのがもっと大変かもしれないね。



洪水と安全避難のめやす(成人男子の場合)

※国土交通省資料をもとに作成

問題4　このグラフから、どのようなことが読み取れますか。読み取れるものを次のア～エからすべて選び、記号で答えましょう。

ア　安全に歩いて避難できる水深は、浸水した水の速さが速いほど、深くなる。

イ　安全に歩いて避難できる水深は、浸水した水の速さが速いほど、浅くなる。

ウ　身長の8割を超える高さまで水が浸水した場合、浸水した水の速さが1秒間に0.5mの速さより速くても、安全に歩いて避難できる。

エ　身長の2割ほどの高さの水が浸水した場合、浸水した水の速さが1秒間に2.5mの速さでは、安全に歩いて避難することは困難である。

まこと：ということは、雨水が道路に流れ出してから歩いて避難するのは、やめた方がよいかもしれないね。
はるか：そうね、避難するときにも注意が必要だし、早目に行動することが大切ね。
まこと：ぼくの住んでいる地域は、洪水の心配はないけれど、がけくずれに注意が必要なんだ。

がけくずれは、がけのある土壌に多くの水が含まれることで、土と土どうしの結びつきが弱くなって起きます。がけくずれが起きる前には、次のようなことが起きています。

- 土と土の結びつきが弱くなった斜面に、亀裂が入る。
- 土の中を地下水が移動する。そのときに音が発生する。
- 細かい土を含んだ水が、地下水と混じってがけから出る。

問題５　がけくずれが心配される地域では、どのような現象に注意を向けることが必要ですか。次のア～エから２つ選び、記号で答えましょう。

ア　がけからにごった水がわき出てくる。
イ　がけからぽろぽろと土砂が落ちてくる。
ウ　一定時間に出る湧水の量が変化しない。
エ　まわりで出た音が、がけにはね返って聞こえる。

はるか：私の住んでいる地域では、今年の夏、何回も激しい夕立があったわ。
まこと：ぼくの住んでいる地域は、あまり雨が降らなかったな。でも、西の方の空で、夕方に積乱雲がもくもくと大きくなっていくのを見たことがあったな。
はるか：きっと、その積乱雲が、私の所まで移動して、雨を降らせたんだわ。
まこと：本当かな？

問題６　積乱雲が近づくと、激しい雨に出会う可能性が高くなります。積乱雲は入道雲とも呼ばれ、たくさんの雲が集まっています。次のア～エのうち、積乱雲が近づいたときに感じる現象をすべて選び、記号で答えましょう。

ア　晴れて気温がどんどん上がる。
イ　雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
ウ　急にヒヤッとした冷たい風がふき出す。
エ　霧雨のように、しとしとと雨が降ってくる。

まこと：自分のいる場所で雨が降らなくても、川の上流で激しい雨が降ったら川があふれることもあるね。

はるか：予測がしにくい地震などの災害と比べて、洪水やがけくずれなどは、起きやすい場所や起きやすい季節があるのかもしれないわ。どういう場所やどういう季節で起きやすいのかな。

まこと：梅雨や台風のシーズンには気象情報に気をつける必要があるよね。自分の住んでいる場所で、いつどのような災害が起こりやすいのかを知っておけば、その準備や、どのような点に注意するのかもわかるね。

はるか：そうね。自分の身のまわりだけでなく、近所の道路や川などに対して目を向けておくことが大切ね。

まこと：それと、自分の住んでいる地域で、過去にどんな災害が起きていたのかも知っておいた方がいいかもしれないね。

はるか：私たちの地域で起こりやすい災害を知る方法は、前にお兄さんと話をしたことがあるわ。（テスト３ページ Ⅰ 問題３）　それに、気候変動によって、今までの記録を超える現象も起こっていると言われているでしょ。どのようにすれば、記録にたよりきらない対策がたてられるのかということも、考えていくべきことの１つになりそうね。

災害から生命(いのち)を守る学びテスト

JBK

ジュニア防災検定®登録商標

N•eco

このマークは、自然環境の保護への取り組みを表わしたものです。

このテストはエコプリンティング(ライスインキ／森林認証紙)で作られています。

問題制作協力：日能研

(本書の記載内容の無断転用・転載を禁ず)

災害から生命を守る学びテスト ジュニア防災検定® 登録商標

第1回

中級 テストⅠ（40分）

1

問題1	問題2	問題3		2	3
エ	エ		ウ	カ	ケ

問題4 □落下物から身を守るために机の下にかくれる。

問題5 エ

□問題6	持ち出し品	使いみち
	ラップ	食べ物をつつんだり、つかんだりする。

問題7 エ

問題8 □小さな子どもといっしょに遊んであげる。

2

問題1	A	B	C	D
	兵庫県南部地震	北海道南西沖地震	能登半島地震	岩手・宮城内陸地震

問題2 □名前とともに自然災害のようすやその当時の課題を次の世代に伝え、未来の防災に生かすという意味がある。

問題3	①	②
	阪神・淡路（大震災）	東日本（大震災）

問題4	(1)	(2)
	エ	□水道管やガス管は地下に埋められているので、復旧工事が大変だから。

□問題4	(3) 番号	(3) 理由
	①	自然災害が起こったときに必要な食料や水はふだんから準備しておいて、あわてて買いに行かなくてもすむようにする。

3

問題1	①	②	問題2	問題3
	ア	イ	イ	□（下水道管の空気に押されて、）マンホールのふたが飛ぶ。

問題4	問題5		問題6
イ、エ	ア	イ	イ、ウ

（無断転載・複製を禁ず）

災害から生命を守る学びテスト ジュニア防災検定® 第1回 中級 テストⅡ（40分）

Ⅰ 次の表は、自然現象による災害が起こった場合に備えて、自宅でできる事前対策をまとめたものです。

	目　的		具体的な行動	やっていること やってみたいこと
①	自分の住む地域で起こりやすい災害を知る	①	災害予測地図（ハザードマップ）を手に入れる	
		②	地域で過去に起こった災害を調べる	
		③	地域の歴史にくわしい人に話を聞く	
		④	地域の地形や地質を確かめる	
②	災害のときに必要になる支援を知る	⑤	どのような支援が必要になるのかを家族、地域で話し合う	
		⑥	町や市などが想定している支援を調べる	
③	地震のときの大きなゆれに備える	⑦	家の回りや部屋の中で、高いところから落ちてきそうなものがないことを確かめる	
		⑧	倒れそうな家具がないことを確かめる	
		⑨	ゆれがおさまるまで安全を確保できそうな場所を確かめる	
④	地震にともなう災害に備える	⑩	津波が発生したときの危険性を調べる	
		⑪	土砂くずれや地すべりの危険性を調べる	
⑤	集中的な大雨に備える	⑫	近くを流れる川や水路を調べる	
		⑬	雨水の排水について調べる	
⑥	強い風に備える	⑭	自宅周囲に倒れたり飛んだりして危険なものがないかを確かめる	
		⑮	窓ガラスが割れたときにガラスが飛び散らないようにする	
⑦	火災に備える	⑯	日ごろ火を使う場所が自宅のどこにあるかを確かめる	
		⑰	住宅用火災警報器の検知のしかたと設置場所を確かめる	
		⑱	消火器の有無や使い方を確かめる	
		⑲	室内に煙が発生したときの避難の仕方を練習する	
⑧	自宅からの避難に備える	⑳	家族と自分の持ち出し品のリストがつくられているかを確かめる	
		㉑	自分の持ち出し品がリュックサックにつめられているかを確かめる	
		㉒	避難場所までの道順を確かめたり、実際に歩いたりする	
⑨	避難所生活に備える	㉓	避難所の場所を知る	
		㉔	避難所での過ごし方を想像してみる	
		㉕	避難所で生活しているときのペットの世話を想像してみる	
⑩	災害のときの自宅での生活に備える	㉖	家族の３日から１週間分の食料や水、日用品の用意があることを確かめる	
		㉗	介護を必要とする高齢者や、乳幼児がいる場合、どのようなものが必要になるのかを想像してみる	
		㉘	停電したときの代わりの明かりの用意があるかを確かめる	
⑪	災害のときの帰宅方法を確保する	㉙	学校と家との間の経路について、複数の手段を確かめ、実際に歩いてみる	
⑫	災害のときの家族との連絡手段を確保する	㉚	家族が自宅外にいる場合に災害が起こったときの連絡方法を確かめる	
		㉛	自宅にもどれないときの集合場所を確かめる	
		㉜	家族が学校や会社に行くための手段を互いに確かめる	
		㉝	家族が通っている学校や会社の連絡方法（電話番号や住所）や情報の受け取り方を知る	
⑬	災害のときの情報を確保する	㉞	携帯ラジオが用意されているかを確かめる	
		㉟	替え電池が用意されているかを確かめる	
⑭	災害のときの情報伝達手段を確保する	㊱	警察や消防への緊急時の連絡方法を知る	
		㊲	親戚や知人と緊急の連絡方法を話し合う	
		㊳	公衆電話の位置を確認する	

＊ ハザードマップ……火山噴火・地震・洪水などが起こった場合に、どのような災害にあいやすいかを地図上に表したもの。

【課題１】
１枚目の表の「具体的な行動」を見ながら、表の右はしの欄に、「すでにやっていること」には◎を、「これからやってみたいこと」には○を書き入れ、それらがない場合は空欄のままにしましょう。

【課題２】
１枚目の表の㋐～㋚の「目的」の中で、あなたが特に気になった項目はどれですか。２つ選び、その記号を書きましょう。また、そのように考えた理由を説明しましょう。

【課題３】
あなたは、自然現象による災害が起こった場合に備えて、どのような事前対策を行っていきますか。１枚目の表に書かれていることを参考にしながら、あなたの考えを書きましょう。

２ 災害が起こったときに、あなたが「こんな物や道具があったら、役に立つかもしれない」と考えて準備をするとしたら、どのような物や道具ですか。次の欄にあてはまるように、あなたが考える物や道具について説明してください。なお、すでにある物や道具でも、あなたが新たに考えた物や道具でもかまいません。

(1) あなたが準備する物や道具の名前は何ですか。

(2) その物や道具は、どのような出来事に備えて準備しようと考えたのですか。

(3) その物や道具の特ちょうを説明してください。図を使って説明することもできます。
また、その物や道具は、災害が起こったときにどのように役立てることができるのかも説明してください。

状況と自分の関わりに目を向ける課題

あなたが家族と一緒に考えた、防災や減災に関することがらを、文章や図を用いて表現することができたでしょうか。テストの時間を過ごしたことで、もっと考え続けていきたいと思えるような内容と出あうことはできましたか。もっともっと表現していきたい、考え続けたいと思える内容があったら、事後課題のテーマとして取り上げていくことができますね。また、テストの後で家族や仲間と話をすることで、考えたい、表現したいと思えるような内容と出あうかもしれません。あなたの中で見つけた、知識どうしのつながりを大切にして、あなた自身が考え、行動する時間をつくりだしていきましょう。

|1| 自然災害が起きた場合に備えて、自宅でできる事前対策をまとめた表に目を向けて、あなた自身の具体的な行動をふり返りましたね。また、自宅でできる事前対策をまとめた表を参考にしながら、あなたができる事前対策に目を向けましたね。災害が起こることを想定して、事前の準備や事後の行動計画を立てておくことは、あなたやあなたの家族をはじめとする人々の命を守ることにつながっています。家族や親せき、友だちや近所の人と話し合いながら、あなたができる事前対策、事後の行動計画を実行していきましょう。

|2| 災害が起こったときに、「こんな道具があったら、役に立つかもしれない」と考えたのは、どのような道具ですか。また、あなたと一緒にテストの時間を過ごした仲間たちはどのような道具を考えていたでしょう。あなたが考えたことを周りの人と話してみることで、ほかにも役に立つ道具が思いうかんだり、もっと便利にするための工夫ができたりするかもしれません。

（無断転載・複製を禁ず）